

富くじに関する文書を読む 解答

史料 明和四年（一七六七）七月

乍恐以書付願上候（社堂大破ニ付富興行願）〔西角井家文書No.二六五五〕

乍恐書付以奉願上候

一武蔵国一宮氷川大明神者出雲国大社ヲ奉遷之社ニ而、延喜式神明帳ニ曰大社也、武蔵風土記ニ曰三座之宮造ニ而有之、當(当)国之惣鎮守御草創ヲ至今ニ千余年之

御鎮座ニ御座候、本社本地堂末社佛(仏)閣建並兩部習合御座候、古来神領多有之候所取失候處(処)、〔平出〕

東照宮様御入国之節社領百石御寄附被成下置、文禄年中伊奈熊蔵殿奉御宮御建立被成下、

御棟札御掛被遊候、其後慶長年中又候社領貳百石都合三百石之御判物被下置候、依之毎年正月六日

御祈祷之御祓大麻奉献上掲御禮(礼)仕候、猶又〔平出〕御代替之節者献上物奉捧、於帝鑑之間〔平出〕

御目見仕御時服拝領仕来候事、且学頭観音寺儀茂、毎年正月六日ニ御祈祷御卷数奉献上御禮(礼)仕候、猶亦公儀薨御被遊候節納経奉拝札来申候、〔平出〕

殿有院様御代寛文年中阿部豊後守殿奉御宮

御建立被成下置、御棟札御掛被遊、其後元禄年中

本地堂再興被為 仰付建立仕候所其以来右社堂小破之節数度取結来候、然ル所此度右社堂及大破難儀

仕候間、先規之通御普請被成下置候様御願申上候、且亦退転仕候三社之幣殿、拝殿、玉垣、石之竹垣、唐門、経蔵隨身門、銅鳥居、御手洗池之泩石垣其外建立仕度奉存候ニ付此度御願申上候者、前々之通御普請従〔平出〕

公儀御建立被成下置候様奉願上候、若御普請被指
遊被下置候儀難相叶御儀御座候ハ、於御當(当地)十ヶ年之間
富興行御免之儀御願申上候、御免被仰付被下置候得者、
右奉納金ヲ以修覆建立悉成就仕難有仕合奉存候、
御吟味之上奉願上候通被為 仰付被下置候様偏奉願上候以上

神主 角井監物 印

同 角井采女 印

同 岩井大膳 印

明和四年亥七月 学頭 観音寺 印

社僧 愛染院 印

同 常楽院 印

同 寶(宝)積院 印

同 大聖院

寺社

御奉行所

【読み下し】

恐れながら書付を以つて願ひ上げ奉り候

一 武蔵国一宮氷川大明神は出雲国大社を奉遷の社にて、
延喜式神明帳に曰く大社なり、武蔵風土記に曰く三座の宮造にて
これ有り、当国の惣鎮守御草創より今に至る二千余年の
御鎮座に御座候、本社本地堂末社佛(仏)閣建て並べ両部習合

御座候、古来神領多くこれ有り候所、取失い候處(処)、

東照宮様御入国の節社領百石御寄附成し下され置き、

文禄年中伊奈熊藏殿を奉じ御宮御建立成し下され、

御棟札御掛け遊ばされ候、其後慶長年中又候社領貳百石

都合三百石の御判物下され置き候、これに依り毎年正月六日

御祈祷の御祓大麻献上奉り御禮(礼)を掲げ仕り候、猶又

御代替の節は献上物捧げ奉り、帝鑑の間に於いて

御目見仕り御時服拝領仕り来たり候事、且つ学頭観音寺儀も、

毎年正月六日に御祈祷御巻数献上奉り御禮(礼)仕り候、猶亦

公儀薨御遊ばされ候節納経拝礼奉り来たり申し候、

厳有院様御代寛文中阿部豊後守殿を奉じ御宮

御建立成し下され置き、御棟札御掛け遊ばされ、其後元禄年中

本地堂再興仰せ付け為され、建立仕り候所、其以来右社堂小

破の節数度取結び来たり候、然る所此度右社堂大破に及び難儀

仕り候間先規の通り御普請成し下され置き候様御願申し上げ候且亦

退転仕り候三社の幣殿、拝殿、玉垣、石の竹垣、唐門、経蔵

隨身門、銅鳥居、御手洗池の洩石垣其外建立仕り度く存じ奉り候に付

此度御願い申し上げ候は、前々の通り御普請

公儀に従り御建立成し下され置き候様願い上げ奉り候、若し御普請

指し遊ばされ下され置き候儀相叶い難き御儀御座候はば、御当地に於

いて十ヶ年の間

富興行御免の儀御願い申し上げ候、御免仰せ付られ下され置き候えば、

右奉納金を以つて修覆建立悉く成就仕り有難き仕合に存じ奉り候、

御吟味の上願い上げ奉り候通り仰せ付け為され下され置き候様偏に願

い上げ奉り候以上

明和四年亥七月

神主 角井監物 印

同 角井采女 印

同 岩井大膳 印

社僧 学頭 觀音寺 印

同 常樂院 印

同 寶(宝)積院 印

同 大聖院 印

寺社
御奉行所

印